

統一様式による「政策医療を担う中心的な医療機関」 からの説明及び協議

- ① 天草市立牛深市民病院 P 1 ~ 1 5
- ② 国民健康保険天草市立河浦病院 P 1 6 ~ 3 0
- ③ 国民健康保険天草市立新和病院 P 3 1 ~ 4 2
- ④ 天草市立栖本病院 P 4 3 ~ 5 6

平成 30 年 3 月 熊本県天草保健所

【統一様式】

天草市立牛深市民病院 が担う役割について

平成30年 3月 天草市立牛深市民病院

【自施設の現状と課題】

◎自施設の理念、基本方針

公平・公正な医療を提供し、地域住民の健康の維持・増進を図り、地域の発展に貢献する。

◎自施設の診療実績(届出入院基本料、平均在院日数等)

- 一般病棟13対1入院基本料
 - 一般病棟看護必要度評価加算、看護補助加算1、夜間75対1看護補助加算、療養環境加算、重症者等療養環境特別加算、栄養サポートチーム加算
- 療養病棟入院基本料1 療養病棟療養環境加算 I
- 検体検査管理加算(I)(II)
- 感染防止対策加算2
- 医療安全対策加算2
- 患者サポート体制充実加算
- 運動器リハビリテーション料(I)、呼吸器リハビリテーション料(I)、
脳血管疾患等リハビリテーション料(II)、がん患者リハビリテーション料
- 在宅療養支援病院(3)、在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学管理料
- がん治療連携指導料
- 糖尿病合併症管理料

【自施設の現状と課題】

- 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- ニコチン依存症管理料
- 医師事務補助体制加算1
- 透析液水質確保加算1
- CT撮影及びMRI撮影

- ・胃がん、大腸がん精密検査機関認定施設
- ・臨床研修協力病院(地域医療研修「国立病院機構熊本医療センター、熊本中央病院」)
- ・看護師実地研修受入「天草看護専門学校、出水中央高校」
- ・理学療法士実地研修受入
- ・管理栄養士実地研修受入

【平均在院日数】 一般 19.5日(H28年度) 直近平均 19.8日(H29年度)

【病床利用率】	平成27年度	一般病床	79.9%	療養病床	91.0%
	平成28年度	一般病床	78.0%	療養病床	67.1%
	平成29年度	一般病床	75.8%	療養病床	70.0%

1 現状と課題 3/5

【自施設の現状と課題】

◎自施設の職員数(医師、看護職員、その他専門職、事務職員等)

医師 常勤 4名(外科2名、内科入院専任1名、小児科1名) 4名

非常勤 常時2名～3名(内科)その他の科 各1名
耳鼻科・眼科・婦人科・整形外科は、週1回～3回
訪問診療(週1回) 特別養護老人ホーム診療(週1回)

その他職員

○薬剤師 1名 ○看護師 64名 ○准看護師 11名 ○放射線技師 4名
○臨床検査技師 5名 ○臨床工学技士 3名 ○理学療法士 6名
○作業療法士 1名 ○管理栄養士 2名 ○介護福祉士 12名
○看護補助者 16名 ○事務職 13名 ○社会福祉士 1名
○医師事務作業補助員 4名 合計 147名

(医事「12」及び調理業務「14」は、外部委託)

【自施設の現状と課題】

◎自施設の特徴・政策医療について

当院は、急性期の一般病床(105床)と慢性期の療養病床(43床)を有しています。うち、6床を救急対応病床として確保しています。

救急医療につきましては、二次救急を標榜し、牛深地域における救急患者を受け入れています。

(平成28年度 救急車受け入れ362台、救急患者延べ2,025人)
外傷(骨折)、心疾患・脳疾患等の当院で対応できない場合は、天草地域医療センターと連携し、対応しています。

手術室も2室有しており、平成28年度は、年間145例(うち全身麻酔29例)の外科系の手術を実施しています。

また、牛深地域において、唯一人工透析治療を行う病院となります。
(20ベットにて、53名程度の透析を実施しています)

【自施設の現状と課題】

◎自施設の特徴・政策医療について

牛深地域において、民間で提供できない診療科である小児科、耳鼻咽喉科、産婦人科を提供しています。

（耳鼻咽喉科、産婦人科は、非常勤医師にて対応）

周産期医療につきましては、本渡地区の天草中央総合病院・本原クリニックと連携し、当院では、妊婦健診等の外来診療を担当しています。

在宅医療については、牛深地域の介護施設の協力医療機関として、医療・介護連携を進めています。

訪問診療・訪問リハビリテーションを実施し、平成29年5月より、在宅とつながるクリニック天草の倉本先生と連携し、在宅支援病院として、在宅医療に携わっています。

1 現状と課題 受託業務等

	相手方	内容等	対象者
検診受託	<ul style="list-style-type: none"> ・天草市、国保、社保 ・全国健康保険協会 ・財団法人 船員保険会 ・各事業所(70事業所) ・市町村共済組合 ・天草市 ・特別養護老人ホーム明照園 	特定検診、施設検診、人間ドック 生活習慣病予防検診 船員手帳交付時検診、生活習慣病検診 事業所検診(法定検診) 人間ドック、総合検診 天草市職員検診(牛深地区) ・定期健康診断(養護50人、特養70人) 入居者健康診断(4月・10月)及び随時	市民 延べ473人 社会保険加入者 231人 船員等 62人 法定 200人 組合員等 9人 職員等 延べ194人 全入居者 新規入居者
協力病院業務 「9施設」	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人「明照園」 ・明照園あんじん「居宅介護」 ・ケアセンター鶴丸「介護老人」 ・ワークショップ「ひなたぼっこ」 ・多機能ハウス「正寿庵」 ・特別養護老人ホーム「悠ホーム」 ・多機能ハウス「あかね苑」 ・多機能ハウス「泉寿苑」 ・グループホーム「明香里」 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容 入居者、利用者の診療に関して協力医療機関として協力。 	全入居者 全利用者
配置医師派遣業務(1施設)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人明照園 養護 50人 特養 70人 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容 週1回 2時間常駐 入居者の健康管理、指導相談及び診療 	全入居者
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・天草市等 ・熊本赤十字病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・天草市受託各種予防接種 ・乳幼児検診(天草市) ・妊婦検診(熊本県) ・献血に係る医師派遣(年4回程度) 	市民 乳幼児 妊婦

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

牛深地域とその周辺地域における初期医療、二次救急医療、急性期医療及び民間医療機関では提供できない診療科を提供し、地域医療を担う病院として位置付けます。

また、天草南部地域で唯一人工透析治療を行う病院としての役割を果たすとともに、在宅医療に関しては、牛深エリアの拠点病院として、当該地域の医療機関と連携し、後方支援病院としての役割を担います。

さらに、本渡看護専門学校の実習施設としての役割、市立病院・診療所の中核病院として新任看護師の研修ほか、専門職員の研修施設としての役割も担います。

このほか、市の保健担当部署と連携し、地域住民の健康増進に取り組むとともに、河浦病院、新和病院及び地域医療支援病院である天草地域医療センター等との連携を図り、下島南エリアで広く医療圏の構築を目指します。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期			
急性期	105	50	50
回復期		55	55
慢性期	43	43	43
その他			
合計	148	148	148

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 ① 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

牛深地域の人口は、減少をしておりますが、65才以上の人口は、今後10年変動がなく現状と同程度の人口と予測されています。

当院の受診動向は、65才以上の患者が80%を占めており、現状と同じ医療供給体制を確保する必要があると考えます。

患者の病態から推測すると回復期・慢性期の病床が多く必要かと考えますが終末期の患者や急変時の対応が必要な、患者も多いため急性期の病床も確保する必要があります。

したがって、機能ごとの病床のあり方につきましては、現状と変わらない入院医療体制が必要かと考えます。

また、高齢者世帯・独居世帯が、増加すると考えられますので、地域包括ケアでまかなえない患者の受け皿も必要になると考えます。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 ① 4 機能ごとの病床のあり方 その3 】

病床のあり方については、現状維持になるかと考えますが、一般病床105床につきましては、急性期を受け入れる病棟と回復期を受け入れる病棟に分けた体制を予定しています。

具体的には、急性期病棟として2階一般病棟（50床）を回復期病棟として3階一般病棟（55床）を、慢性期病棟は、現状と同じく3階療養病棟（43床）を予定しています。

但し、回復期の病棟については、回復期リハ病棟ではなく回復期の患者専用の一般病棟として考えています。

また、地域包括ケア病床の導入も検討しています。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	現時点 (2018年3月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科・外科・整形外科・ 小児科・産婦人科・眼科 科・耳鼻科・人工透析内 科・リハビリテーション科	内科・外科・整形外科・ 小児科・産婦人科・眼科 科・耳鼻科・人工透析内 科・リハビリテーション科	現状の診療科を維持
新設			
廃止		不採算診療科の 見直しを検討	天草市立病院改革 プランに記載
変更・統合			

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(2018年1月末時点)	2025年
①病床稼働率	77.8%	80%以上
②紹介率	2.6%	特に数値目標なし
③逆紹介率	6.6%	特に数値目標なし

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

当院の現状での最大の課題は、医師を含む医療従事者の確保ができていない事にあります。

医師については、常勤医師4名（うち小児科1名）で、120人を超える入院患者を担当されています。

常勤医師の派遣を大学にお願いしても「人員不足で派遣できない」「自治医科大学に依頼されてはいかがですか」と言われます。

県にお願いしても自治医科大学の派遣対象医療機関にならないとの判断で医師の派遣ができないのが状況です。

民間のドクターバンクに依頼してもきびしい状況です。地理的な問題が多く聞かれます。「牛深は遠い・・・」
薬剤師についても同様で、必要数2名に対し1名の配置になります。

常勤医師・薬剤師及び看護職員の確保が当面の課題となります。

4 その他特記事項

【専門外来について】

「整形外科」につきましては、非常勤医師と熊本赤十字病院、熊本整形外科病院より、「耳鼻咽喉科」「人工透析内科」については、熊大より、産婦人科は、本原クリニック及びわせだ直子レディースクリニックより医師を派遣していただき外来診療を実施しています。

また、熊大循環器内科より、毎週月曜日・火曜日に医師派遣していただき循環器系の患者さんを診療していただいています。

牛深地区は、糖尿病の患者が多く、当院には、専門の医師が不在であるため、栖本病院の水流添先生にご協力いただき毎月第4木曜日の午後に糖尿病専門外来を開設し、予約患者のみの診療を実施していますが、患者数に対応できない状況です。

高齢化に伴い、高齢者世帯・独居老人が多く、交通手段の関係で簡単に専門病院受診もきびしい状況になっています。

牛深地区にない診療科の専門外来の開設も検討する必要があると考えます。

【統一様式】

天草市立河浦病院が 担う役割について

平成30年3月 国民健康保険
天草市立河浦病院

【自施設の現状と課題】

自施設の基本方針

- ①河浦町及び天草町とその周辺地域における初期医療、救急医療、急性期医療及び回復期医療を行い、地域医療を担う病院として位置づける。
- ②在宅医療に関しては、必要に応じ訪問診療に取り組むとともに当該地域の医療機関と連携し、後方支援病院としての役割を担う。
- ③市の保険担当部署と連携し、地域住民の健康増進に取り組むとともに、牛深市民病院、新和病院及び天草地域医療センター等との連携を図り、下島南エリアで広く医療圏の構築を目指す。

自施設の診療実績

【一般病棟13対1入院基本料 39床】

○看護補助加算2、重症者等療養環境特別加算

【療養病棟入院基本料2 60床】

○入院時食事療養費(Ⅰ)

○検体検査管理加算(Ⅰ)(Ⅱ)

○運動器リハビリテーション料(Ⅱ)、呼吸器リハビリテーション料(Ⅱ)、
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅲ)

○ペースメーカー移植術・ペースメーカー交換術

○在宅時医学総合管理料

○CT撮影及びMRIマルチスライスCT

○がん性疼痛緩和指導管理料 ○がん治療連携指導料

○後発医薬品使用体制加算Ⅰ ○感染防止対策加算2

1 現状と課題 3/8

- ・熊本県地域医療研修システム受入病院
- ・臨床研修協力病院(地域医療研修「熊本赤十字病院」)
- ・理学療法士実地研修受入

入院の状況

	2015年度	2016年度	2017年度 (4月～1月)
入院患者延数	一般	11,416人	9,200人
	療養	18,400人	12,868人
病床利用率	一般	80.0%	77.1%
	療養	83.8%	70.1%

【平均在院日数】 一般病棟 20.8日(2016年度)
 直近平均 19.2日(2017年度)

自施設の職員数

(医師、看護職員、その他専門職、事務職員等)

医師 常勤 4名(外科3名、内科1名)
非常勤 1名(整形外科、週2回)

その他職員

○薬剤師	1名	○看護師	38名
○放射線技師	1名	○准看護師	12名
○検査技師	2名	○介護福祉士	12名
○理学療法士	2名	○看護補助者	7名
○作業療法士	1名	○事務職員、他	9名
○栄養士	2名		

合計 92名

(医事「6名」及び調理業務「9名」は、外部委託)

自施設の特徴

- ・当院は河浦町及び天草町とその周辺地域における地区内の唯一の病院。
- ・当院は本渡地区、牛深地区の病院まで車で30分以上の時間を要することからも地元での診療を要望されている。また、高齢化が最も進んだ地域でもあり、老人介護施設等も多数の入所者があることでも慢性期の医療についての需要が多い。
- ・救急医療,在宅医療,健康増進,疾病予防を担う病院として地域医療の拠点となっている。

病院の病棟の構成は

- ・一般病床(39床):回復期機能を中心とする。
 - ・療養病棟(60床):慢性期機能を中心とする。
- 以上の2病棟、99床の病床を有している。

自施設の政策医療について

- ・ 5疾病について

急性心筋梗塞急性期、脳卒中急性期等の当院で対応できない場合は拠点病院及び地域医療支援病院である天草地域医療センター等と連携し対応している。

その他の急性期を過ぎた患者について、医療機関と連携し、回復期医療として受け入れている。

- ・ 5事業について

病院群輪番制病院に参加し、救急医療、夜間や休日の急患にも対応。

救急医療については、二次救急を標榜し主に河浦町及び天草町における救急患者を受け入れ。

救急患者受入数(救急車及び時間外患者数)

	2015年度	2016年度	2017年度 (1月まで)
救急車受入	173 台	204台	197台
救急患者数	1,383人	1,407人	1,301人

1 現状と課題 7/8

	医療・福祉機関	健診等	対象者
健診 受託 業務	<ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホーム実相園 60人 ・救護施設天草園 70人 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断 <ul style="list-style-type: none"> 入居者健診(年1回) インフルエンザ予防接種 職員健診(年1回) 特定業務従事者健診(年2回) ・随時健康診断 <ul style="list-style-type: none"> 入居者健診(新規)等 	<ul style="list-style-type: none"> 全入居者 全入居者・全職員 全職員 夜勤者・宿直者 新規入居者
医師 派遣	<ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホーム実相園 ・救護施設天草園 	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の健康管理、診療等 実相園(週2回) 天草園(週1回) 	施設入居者
その 他	<ul style="list-style-type: none"> 天草市 保育園等 市内事業所等 牛深警察署 	<ul style="list-style-type: none"> 天草市職員健診 天草市各種予防接種 被爆者健診 3歳児健診等 一町田保育園病後時保育診療 崎津保育園園児健診 事業所職員健診等 警察嘱託医 	<ul style="list-style-type: none"> 天草市職員等 市民 保育園児 保育園児 市民
連携	介護保険機関等 河浦、天草地区	入院等医療連携	入居者等

自施設の課題

- 1 医療職員の確保について
医師の確保・・・常勤の内科医1名の退職後の補充できていない。
必要医師数が満たされない。
看護職員、補助職員・・・退職者の補充ができていない。
施設基準の取得(看護加算等)が難しい。
- 2 診療報酬の制度改革に伴う施設基準の見直し
療養病棟について、転換に迫られる。
- 3 在宅医療への取り組み
医師数に余裕が無く在宅医療の取り組みは遅れている。
- 4 経営の安定
人口減少等で患者の減少による収益の低下
診療報酬の有利な基準の取得

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

- 河浦町及び天草町で唯一の病院、地域医療を担う病院として位置付ける。
 - 救急医療の実施
 - 初期医療から慢性期までの幅広い医療の提供
 - 市の健診、予防接種等の保健事業の実施
 - 高齢化社会に対応し、地域のニーズに対応した回復期医療、慢性期医療の提供
 - 在宅医療に関しては、必要に応じて訪問診療に取り組むとともに地域の医療機関、施設と連携し、後方支援病院としての役割を担う。
- 牛深市民病院、新和病院及び地域医療支援病院である天草地域医療センター等との連携を図り、下島エリアで広く医療圏の構築を目指す。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項 1/3

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期			
急性期			
回復期	39	39	39
慢性期	60	60	60
その他			
合計	99	99	99

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項 2/3

【①4機能ごとの病床のあり方 その2】

- 当病院の一般病棟は急性期病床としていたが、医師の人員不足もあり、入院患者は急性期を過ぎた回復期の状態が多くなっている。そのほかにも、救急の患者も多数あり、自宅への退院を目指すためにも現状の病床を維持して回復期病床として39床を維持し医療機能の充実を図る。
- 療養病床は、高齢化が著しく進む地域でもあり、高齢者世帯・独居世帯がさらに増加すると考えられ、特別養護老人ホームなどの空きも少ないことから、地域の需要が見込まれる。今後も引き続き慢性期の医療を提供し、住民のニーズに応えるよう慢性期病床として60床を維持する。
- 高度急性期、急性期の患者については天草地域医療センター、天草中央総合病院などの地域支援病院や熊本市内の病院と連携し、遅滞無く対応できる体制を構築する。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項 3/3

【②診療科の見直し】

	現時点 (2018年 3月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科・外科・ 整形外科・小児科・ リハビリテーション科	内科・外科・ 整形外科・小児科・ リハビリテーション科	現状の診療科を維持
新設			
廃止			
変更・統合			

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(2018年1月末時点)	2025年
①病床稼働率	82.8%	80%以上
②紹介率	16.5%	特に数値目標なし
③逆紹介率	26.3%	特に数値目標なし

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

慢性期医療である療養病棟の病床利用率が減少傾向にあり現在は70%前後で推移。

入院患者の確保のため関係する医療・福祉機関との連携の強化、病床利用率の向上を図る。(当病院による地域の医療、福祉関係機関への連携会議の実施)

回復期病床の機能の向上を図るため、急性期病院からの受入や、一般入院患者の自宅への退院を目指しリハビリ部門の充実を図る。

地域包括ケアシステムの中でも在宅医療については、リハビリ部門の充実などで訪問リハビリについて検討。

地域包括ケアシステムの後方支援については受入を進めて、地域住民に医療の提供を行なっていきます。

【統一様式】

天草市立新和病院が 担う役割について

平成30年3月 国民健康保険天草市立新和病院

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

自施設の基本方針

- ・ **新和町及び周辺地域における、かかりつけ医の機能と、救急医療、回復期医療及び介護事業を行い、地域医療を担う病院として位置付けます。**
- ・ **市の保健担当部署と連携し、隣接する保健福祉センターを有効に活用した地域住民の健康づくり事業を推進するとともに、訪問診療、訪問リハビリ、訪問看護等を継続して周辺地域の在宅医療を担います。**

1 現状と課題 2

診療実績・職員数など

入院基本料

療養病棟(医療型)	療養病棟入院基本料2	22床
療養病棟(介護型)		18床
合計		40床

- ・療養病棟療養環境加算(1)
- ・夜間休日救急搬送医学管理料
- ・検体検査管理加算(1)
- ・がん治療連携指導料
- ・運動器リハビリテーション料(Ⅱ)
- ・呼吸器リハビリテーション料(Ⅱ)
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅲ)
- ・CT撮影
- ・入院時食事療養(1)
- ・入院時生活療養費(1)

平成28年度実績

述べ入院患者数	13,804人	病床利用率	94.55%
1日平均入院患者数			37.82人
平均在院日数(年平均)			48.76日

1 現状と課題 3

自施設の職員数(医師、看護職員、その他専門職、事務職員等)

常勤医師	3名
非常勤医師(整形外科 週2日)	1名
看護師 正看護師 15名・准看護師 13名	28名
医療技師等	7名
看護補助員	8名
医療技術補助員	7名
事務職員	7名
調理員	8名
清掃	2名
合 計	71名

1 現状と課題 4

自施設の特徴

・当院は、新和地域唯一の医療機関であり、療養(医療)22床、(介護)18床、合計40床の慢性期医療中心の病院です。周囲には、保健福祉センター、高齢者生活福祉センター、特別養護老人ホーム、小規模多機能ホーム等が存在し「保健・医療・福祉の拠点づくりと連携の強化」を図りながら、医療だけでなく介護サービス事業(介護療養型医療施設、通所リハビリ、訪問リハビリ、訪問看護、居宅療養管理指導、居宅介護支援)、予防接種・健康診査事業等を実施し、地域に必要とされる病院として、住民の健康づくりや福祉にも取り組んでいます。また、地域内にある保育園、小中学校の校医、隣接する特養、グループホーム等の健診受託事業や協力病院業務、配置医師の派遣業務など地域内の行政、福祉施設と連携した取り組みを行っています。

自施設の政策医療

・5疾病について

対応困難な疾病については、拠点病院及び地域医療支援病院である天草地域医療センター等と連携し対応しています。

・5事業について

平成15年より救急告示を行い、周辺地域住民の救急患者受け入れを行っています。今後も救急告示を継続することにより、引き続き地域の救急医療にあたります。

1 現状と課題 5

	他機関の内容	健診名等	対象者
福祉施設健診受託業務	<ul style="list-style-type: none"> 入居者数 特別養護老人ホーム 50人 グループホーム新和 9人 職員数 74人 	<ul style="list-style-type: none"> 定期健康診断 入居者健康診断(6月) インフルエンザ予防接種 特定業務従事者健康診断 職員健康診断(6月) 随時健康診断 入居者健診 入職時健康診断 	全入居者 全入居者・全職員 夜勤者・宿直者 直接処遇職員 新規入居者 新規採用職員 新規採用直接処遇職員
協力病院業務	<ul style="list-style-type: none"> 入居者数 特別養護老人ホーム 50人 グループホーム新和 9人 	<ul style="list-style-type: none"> 内容 入居者の診療に関して協力医療機関として協力 	全入居者
配置医師派遣業務	<ul style="list-style-type: none"> 入居者数 特別養護老人ホーム 50人 	<ul style="list-style-type: none"> 内容 週1回 3時間常駐 入居者の健康管理、指導相談及び診療 	全入居者
その他	<ul style="list-style-type: none"> 天草市、学校、保育園等 	<ul style="list-style-type: none"> 内容 小宮地保育園児健康診断 2/年実施 天草市新和小・中学校校医 天草市受託健診 天草市受託各種予防接種 施設健診 事業所健診 天草市職員健診 	保育園児 53人 小・中学生 168人 3歳児健診 市民 市民 天草市職員等

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

基本方針

- ・これまで同様、かかりつけ医の機能、救急医療、介護事業、健診事業を継続し、入院病棟機能を慢性期医療の療養病棟から回復期医療の一般病棟（15対1）へ変更し、近隣の医療機関、地域内の福祉施設等と連携した地域医療を担います。
- ・介護事業や各種健診事業の充実を図り地域周辺住民の健康増進に努めます。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期			
急性期			
回復期		40床	40床
慢性期	40床		
その他			
合計	40床	40床	40床

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 ① 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

現在、当院の全病床数40床うち療養病棟入院基本料2を22床、介護療養病床18床の慢性期病棟として運営しています。平成28年度実績では毎月の平均入退院数が、それぞれ23人となっています。また、一般病棟入院基本料(15対1)に関する基準については、看護配置・夜間体制・看護師比率・平均在院日数60日以内をすでに満たしており、すでに一般病棟(15対1)回復期病棟の状態であります。

今後、必要医師数を確保したうえで、現有病床数(40床)を維持し、一般病棟入院基本料(15対1)回復期病棟へ転換することとしています。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	現時点 (2018年3月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科・外科・小児科 循環器内科・消化器科 整形外科・リハビリ テーション科	内科・整形外科 リハビリテーション科	
新設			
廃止		外科・小児科 消化器科・循環器内科	専門医不在による
変更・統合			

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(2017年10月時点)	2025年
①病床稼働率	94.5%	95.0%
②紹介率	3%	数値目標の設定なし
③逆紹介率	32%	数値目標の設定なし

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

- ・ 当院は、医業の他、介護事業、健診事業など幅広く事業運営しており、現状での必要医師数は確保できているものの、医療スタッフ、給食調理員、事務職員など多職種において職員の確保が困難な状況となっている。
- ・ 一般病棟入院基本料（15対1）への転換基準のうち、必要医師数の増が見込まれるため、早急に正確な必要医師数の把握、医師確保を行い転換の促進を図る必要がある。
- ・ 地域包括ケア病床については、一般病棟への転換後、改めて検討を行うこととしている。

【統一様式】

天草市立栖本病院が 担う役割について

平成30年3月 天草市立栖本病院

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

自施設の基本方針

- ①天草市栖本町・倉岳町とその周辺地域における、かかりつけ医の機能、救急医療、急性期医療及び回復期医療を行い、地域医療を担う病院として位置付ける。
- ②一般病床の他に46床の結核病床を有する。「熊本県結核対策プラン」で標準的な結核治療を行う機関として位置付けられており、天草圏域における結核医療を担う。

1 現状と課題 続き

診療実績・職員数など

届出入院基本料 13:1

許可病床数 一般病床24床, 結核病床46床 合計70床

- 一般病棟 1 3 対 1 入院基本料 結核病棟 1 3 対 1 入院基本料
- 看護補助加算 2 重症等療養環境加算 1 療養環境加算 栄養管理実施加算
- 療養病棟療養環境加算 1 ○検体検査管理加算 I
- 救急搬送患者地域連携紹介・受入加算
- 救急医療管理加算 ○後発医薬品使用体制加算 I
- 入院時食事療養 I ○がん治療連携指導料

H28実績:

【一般病床】延入院患者数6,123人 病床利用率69.9% 平均在院日数20日

【結核病床】延入院患者数687人

職員数

医師: 常勤 2 名 非常勤医師 4 名

看護職員: 看護師 1 8 名 准看護師 2 名 看護助手 3 名

医療技師: 薬剤師 1 名 放射線技師 1 名 検査技師 1 名 管理栄養士 1 名

その他: 調理員 5 名 事務職員等: 事務職員 4 名 医事係 5 名

合計: 4 3 名 (非常勤医師除く)

1 現状と課題 続き

自施設の特徴

- ・ 一般病床については回復期機能が中心であるが、急性期から慢性期まで幅広く受け入れている。高齢化の進んだ地区であり高齢者医療に積極的に取り組む。また当地域でも生活習慣病は急増しており一般的な内科診療に加え得意分野である生活習慣病の専門診療で地域医療に貢献する。
- ・ 結核病床は「熊本県結核対策プラン」で標準的な結核治療を行う機関として位置付けられている。

自施設の担う政策医療（5疾病・5事業及び在宅医療に関する事項）

- ・ 5疾病については糖尿病分野において専門医療を提供する役割を担う。
- ・ 5事業については、救急告示病院として、地域住民と地域医療に貢献する。
- ・ 在宅医療に関しては、当地域の医院と連携して後方支援病院としての役割を担い、また必要に応じて訪問診療に取り組む。また地域の老人福祉施設・介護保険施設の協力医療機関として医療・福祉介護連携を進めている。

1 現状と課題 続き

他機関等の連携

- ・ 近隣の医療機関と連携して急性期疾患の入院治療の提供や、糖尿病など専門疾患の病診連携を実施している。
- ・ 当院で対応困難な疾病などについては、天草地域医療センターをはじめとする高次医療機関と連携し対応している。
- ・ 地域内の福祉・介護保険施設の協力病院として、配置医師の派遣等で連携を図っている。
- ・ 行政等、他の機関との連携を行い地域住民の健康増進に努めている。

1 現状と課題 続き

	他機関の内容	健診名等	対象者
福祉施設健診受託業務	<ul style="list-style-type: none"> 入居者数 養護老人ホーム 50人 特別養護老人ホーム 47人 職員数 85人 	<ul style="list-style-type: none"> 定期健康診断 入居者健康診断(4月・10月) インフルエンザ予防接種 特定業務従事者健康診断 職員腰痛健康診断(9月・3月) 随時健康診断 入居者健診 雇用時健康診断 腰痛検査 検便 	全入居者 全入居者・全職員 夜勤者・宿直者 直接処遇職員 新規入居者 新規採用職員 新規採用直接処遇職員 新規採用調理職員 新規採用訪問介護員
協力病院業務	<ul style="list-style-type: none"> 入居者数 養護老人ホーム 50人 特別養護老人ホーム 47人 	<ul style="list-style-type: none"> 内容 入居者の診療に関して協力医療機関として協力 	全入居者
配置医師派遣業務	<ul style="list-style-type: none"> 入居者数 養護老人ホーム 50人 特別養護老人ホーム 47人 	<ul style="list-style-type: none"> 内容 週1回 3時間常駐 入居者の健康管理、指導相談及び診療 	全入居者
その他	<ul style="list-style-type: none"> 天草市、学校、保育園等 	<ul style="list-style-type: none"> 内容 和貴保育園児健康診断 2/年実施 天草市立栖本小学校校医 天草市受託各種予防接種 天草市職員健診 結核に係る健康診断及び精密検査業務 	保育園児70人 小学生 市民 天草市職員等

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

基本方針

- ・これまで同様に、かかりつけ医の機能、救急医療、急性期医療及び回復期医療を行い、地域医療に貢献する。
- ・糖尿病専門医療を充実させ天草圏域の健康増進に努める。
- ・結核病床については当面は現状を維持するが、天草圏域での今後の結核発生の状況を見ながら、県、市の政策もふまえて削減や用途の転換を検討する。

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

職員数

医療従事者の確保では、常勤医師が1名不足しており、非常勤医師で対応している。今後も引き続き医師の確保に努める。

自施設の特徴

- ・ 一般病床については回復期機能が中心であるが、これまで通り急性期から慢性期まで幅広く受け入れ地域医療に貢献する。
- ・ 結核病床は当面は現状を維持するが、天草圏域の結核症の状況の変化に応じて縮小、廃止を決定する。

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

政策医療に関する事項

- ・ 5 疾病については糖尿病専門医療を向上を図る。
- ・ 5 事業については救急告示病院としての機能を維持する。
- ・ 在宅医療に関しては今後も後方支援病院としての役割を担い、また必要に応じて訪問診療に取り組む。

他機関等の連携

- ・ 近隣の医療機関と連携を継続する。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期			
急性期			
回復期	24床	24床	24床
慢性期			
その他	結核46床	結核46床	結核46床
合計	70床	70床	70床

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 ① 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

当院は結核診療施設として設立された。現在も結核病床を有しているが、疾病構造の変化により結核患者数が減少していることから、結核病床数は段階的に減床してきている。

町立病院として、当地域に密着し特に内科系の急性期医療から慢性期医療まで幅広く提供してきた経緯があり、現在もその機能を担っている。

医療資源投入量としては回復期に相当する程度のものであるため、病床機能としては回復期として届け出を行っている。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	現時点 (2018年3月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科 呼吸器科	内科 呼吸器科	
新設		糖尿病内科	糖尿病療養指導士など スタッフのさらなる育 成
廃止		呼吸器科については廃 止する可能性がある	結核患者の状況により 廃止する可能性がある
変更・統合			

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(2017年10月時点)	2025年
①病床稼働率	66.4% (一般病床)	70.0% (一般病床)
②紹介率	11.1%	数値目標の設定なし
③逆紹介率	4.6%	数値目標の設定なし

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

- 1) 関係する医療・福祉機関との連携を強化し入院患者の確保による病床利用率の向上へ取り組む（地域における連携会議）。
- 2) 病院ホームページの充実やパンフレット作成による情報発信。
- 3) 医療従事者のスキルアップのための講習会等への積極的な参加並びに関連する資格の取得。
- 4) 地域包括ケア病床についても検討しているが、現時点では施設要件を満たすことが困難である。